

私たちを支えてくださる御手

(イザヤ 41:10, 49:13-16)

神様の手は、私たちが弱い時、強めてくださる手であり、私たちが助けを必要としている時、助けて下さる手であり、私たちが助けを必要としている時、助けて下さる手でもあります。

はじめに

イエス様に次いで、聖書では、ダビデ、そしてダビデの人生について、多くのことが記録されています。

神の心になつた者 (Acts 13:22)

ダビデは、イスラエルの偉大な王であり、「神の心になつたもの」というように聖書では、描かれています。聖書の中で最も有名な詩篇23篇を書いた人物です。そして、多くの、クリスチャンに、この23篇は、励ましと慰めを与えてくれます。まだキリストを知らない人たちも含めて、多くの人が、ダビデが、投石器と石だけで、巨人ゴリアテを倒すほどの信仰を持っていた、青年だったことを知っていると思います。ダビデの詩をすべて読んでみるなら、良いか悪いかは別にして、ダビデが、とても、感情的かつ、情熱的な男性であったことにすぐ気づくと思います。ダビデについて、私が個人的に、好きな点は、詩を書くとき、自分が考えていることそして、感じていることに、とても、素直で正直なことです。

ダビデは、自分の感情、疑い、恐れをごましたりはしていません。信仰生活の中で悩み苦しんだり、傷ついている時には、そのままの気持ちを口にしました。とても素直で正直な男性であることが見て取れる詩は、詩篇13篇です。このように13篇は、始まります。

1 主よ、いつまでなのですか。とこしえに私をお忘れになるのですか。いつまで、御顔を私に隠されるのですか。2 いつまで、私は魂に痛みを負い、ひねもす心に悲しみをいだかなければならないのですか。

一体、どれほどの方が、今までに、神様に対して、ダビデのように考え、感じて苦しんだことがあるのでしょうか？そして、今まさに、このとき、そのように悩み、苦しんでいる方はどれくらいおられるのでしょうか？一体、どこに神様はいて、なぜ、自分を見捨ててしまったのかと考えながら、今座っている方はどれくらいおられるのでしょうか？

I. 復習

この過去2週のメッセージにおいて、私たちは聖書に書かれている「手」について様々な角度から、主のご性質を見てきました。人間とは違い、イエス様は、ご自身が神であることと権力を強く握り

しめようとされなかったことを、見てきました。実際、イエス様は、その代わりに、謙遜にも、ご自身の栄光と誉れを捨て、自分では何もできない赤子となり、最終的には、私たちの罪のために、十字架で死なれました。先週、私たちは、悔い改めた罪人を、ご自身の御腕を大きく広げて、受け入れてくださる、私たちの造り主であられる主について、描写されている旧約聖書の聖書箇所をいくつか見ました。私たちは、また、主は、陶器師と呼ばれ、そして、すべての人に命、息、あらゆるものをお与えになったかたであることも、見ました。そして、私たちが、救い主であり、主であると、信頼を置いたとき、主は、私たちの人生において、私たちを、造り変える工程に入られるのです。その工程とは、つまり、ますます、私たちを、イエス・キリストに似たものとするためのものです。今朝は、旧約聖書の別の聖書箇所でも描かれる、主の御手について見ながら、このテーマについて続けて話したいと思います。特に、今、難しい時を過ごされている方がいらっしゃるならば、この驚くべき真理によって、励まし、慰め、助けが得られるようにと祈っています。

II. 私たちを強め、助け、そして、支えてくださる手

もし、聖書をお持ちであれば、イザヤ41章10節を見ていただきたいと思います。神様は、預言者イザヤを通して、バビロンに無理やり連れて行かれた生活から解放された後、これから自分たちはどうなるのだろうと、恐れと不安を抱いていたユダヤの民たちに、語り掛けています。これが、主が、彼らに言われたことです。

「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えて、あなたを助け、わたしの救いの右の手であなたを支える。」

A. 私たちは、自分の置かれている状況に目をよく留める

ここに、あるいは、オンラインで、みて下さっている方々の中に、恐れや不安と、今、向き合っている方はどれくらい、いらっしゃるでしょうか？

主は、私たちに、ご自身に信頼を寄せてほしいと願われています。

主は、「恐れることはない。心配して周りを見渡してはならない。」と言われます。

これは、嵐の中、夜に、水面の上を歩いた、ペテロにもあてはまる問題です。おそらく、多くの方が、このお話をしっていると思います。弟子たちは、イエス様が、酷い嵐の中、水面を歩いているのを見て、ペテロは、大胆にも、イエス様にこのように言ったのです。

「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」

そして、「来なさい」とイエス様が言われた時、ペテロは、舟の外に出て、イエス様に向かって、水の上を歩み始めました。ペテロが、あることをするまでは、順調に歩いていたのです。

この後、何が起こったか分かりますか？

この後、何が起こったのでしょうか？

(そうです。) ペテロは、沈み始めたのです。しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。(新共同訳)

なぜ、沈んでしまったのでしょうか？

それは、イエス様から目を離して、辺りを見回し、嵐、つまり、恐ろしい状況に目を向けてしまったからです。言い換えるならば、ペテロは、神様が、イスラエルの民に、イザヤ41章10節でしてはいけないと、言われたことをしたのです。神様は、ここにいる私たちが、これからどうなるか分からず、恐れを感じる状況に直面する時に、今日、神様が語ってくださる同じことを、イスラエルの民に言われたのです。「恐れるな、不安な気持ちで、あなたの周りを見渡して、自分の置かれている状況を、見てはならない。」

B. 私たちは、恐れや不安ではなく、平安をもつことができる

これからどうなるかが分からず、つらい思いをしている時に、なぜ、恐れずにいることができるのでしょうか？もう一度、イザヤ41章10節をみてみましょう！

「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えて、あなたを助け、わたしの救いの右の手であなたを支える。」

神様は、私たちが、恐れたり、不安になったり、する必要がない理由を3点ここで上げています。

主は、私たちと共におられる

主は、私たちの神

そして、主は、私たちを強め、助け、支えてくださると約束してくださいました。ここには、主が御手を用いられる、別のことについて書かれています。キリストの似姿に、私たちを造り、そして、造り直すことに加えて、罪を悔い改め、主のもとに、へりくだって来るとき、愛の御手をもって、私たちを受け入れてくださることに加え、主は、ご自身の手を、困難に直面している私たちを強め、助け、支えるために、その手を使われるのです。「右手」を用いることで、神様は、ご自身の「最も強い」手を用いると言われているのです。そして、どの日本語の聖書を持たれているかによって、訳は、変わってきますが。英語の聖書で「義」として翻訳されている単語は、日本語で「救い」「義」「勝利」として訳されています。私は、今日、新共同訳を用いています。その理由は、「救い」という言葉が使われているからです。しかし、私は、これらの3つの言葉、全てが、当てはまると思います。神様の手は、義であり、公正であり、強くあり、救いだしてくださいます。さらに、常に、敵の手に対して、勝利をおさめます。そして、神様は、私たちを支えるのは、そのような手であることを、私たちに知ってほしいと願われています。

C. 神様は困難な時を通っている私たちと、共におられて支えてくださる

私たちに恐怖や不安を感じさせる状況に直面するとき、私たちの神様はその場所でともにいて下さり、そのつらい時を過ごす私たちを見守ってくださいます。気を付けていただきたいのは、神様が困難な状況を変えてくださるとか、私たちを、その状況から救い出してくださいとは、言われていないということです。もちろん、時折、そうしてくださることはあります。しかし、イザヤ41章10節で、主は、私たちが必要とする力を与えるために、困難の真ただ中にいるとき、私たちと共にいると約束してくださっています。さらに、主の力強い御手で、私たちを脅かすような状況の中でも、私たちを助け、支えてくださることも、約束してくださっているのです。もちろん、私たちは、ペテロがしたことと同じことをする傾向をもっています。それは、私たちの恐怖、不安を掻き立てることに、目を向けてしまうことです。しかし神様は、「恐れるな、わたしが共にいる」と言われます。今のあなたの現状ではなく、わたしを見なさい。わたしが、あなたの神です。

そして、わたしは、黒い日々の中で、あなたを強め、あなたを助けることができる。このことを心に刻んでおきなさい。わたしの義の右手で、あなたを支えることができる。もし、あなたが、そのように、わたしに頼み、信頼を置いてくれるのなら。」と神様は、言われているのです。

簡単に聞こえますが、ここに集う、すべてのクリスチャンが、時々、このようにすることが、とても難しい時があることを知っていると思います。私は、皆さんの前に立って、私たちの心が、恐れと不安で一杯なとき、神様を信頼することはいつも、簡単にできるものだと、軽々しく言っているわけではありません。しかし、これらのことが、私たちの造り主から私たち、神様の愛された子どもたちへの言葉なのです。人生の試練、苦しみ、痛みの中、私たちとともに、神様はいてくださいます。「わたしはあなたと共にいる。わたしは、あなたの神。あなたを強め、あなたを助け、あなたを支える。」という約束をしっかりと覚え続けることができるような信仰と強い決意を与えていただけるように、主に、頼みましょう。クリスチャンの兄弟姉妹に、祈ってもらいように、頼むことを、ためらわないでいただきたいです。私たち皆、1人ではなく、「人生」というものを共に生きています。特にこのように、神様の家族として集められている時にはそうです。

III. わたしは手のひらにあなたを刻んだ」

先ほど言ったように、時折、神様の約束を知っているにもかかわらず、主を信頼することがとても、難しいときがあります。そして、神様は、ユダヤの民に、このイザヤ41章10節の素晴らしい約束をお与えになられたけれども、彼らは、この言葉を信じるのが難しかったのです。

今日、ダビデ王と、詩篇13篇にある彼の言葉を見ながら、このメッセージを始めました。

1 主よ、いつまでなのですか。とこしえに私をお忘れになるのですか。いつまで、御顔を私に隠されるのですか。2 いつまで、私は魂に痛みを負い、ひねもす心に悲しみをいだかなければならないのですか。

取り巻く状況が困難なとき、痛み、恐怖、裏切り、そして、私たちの心と頭から、平安を奪い取るような様々なことに、潰されそうになるときダビデがここで感じているように、神様について感じてしまうのは、本当にたやすいことだと思います。

しかし、これは、あくまでも、ダビデの感情だということ覚えておいてください。神様は、まったくもって、ダビデを忘れたり、御顔を隠されたりはされたことはありませんでした。ただ、ダビデがそのように、感じてしまったのです。

1. イスラエルは、見捨てられ、忘れ去られたと感じていた

イザヤ49章で、同じように苦しみもがく姿が見て取れます。時代は、イザヤ41章の時代とだいたい同じだと思われまゝ。今や、エルサレムは、廃墟と化し、ユダヤ人たちは、自分たちを取り巻く状況を見て、未来を思い描くとき、恐れ、不安になっていたのです。では、イザヤ49章13節から16節を見たいと思います。この節は、バビロンで囚われていた人々を解放され、エルサレムへと主が戻された、神様の誠実さに対して、喜びにあふれて賛美するイザヤの言葉から始まります。

¹³ 天よ。喜び歌え。地よ。楽しめ。山々よ。喜びの歌声をあげよ。主がご自分の民を慰め、その悩める者をあわれまれるからだ。

イザヤは主がご自身の民を慰め、憐みを示してくださったことを称え、感謝しています。しかし、このことについて、ユダヤの民は、どう感じたのでしょうか？

¹⁴ しかし、シオンは言った。「主は私を見捨てた。主は私を忘れた」と。

シオンとは、エルサレムの街と、神の民を表す言葉ですが、そのシオンが、神様がしてくださった数々の善きことにたいして、きちんと、返答していません。ただ、彼らは、エルサレムが、バビロニア人によって、破壊されたという事実には、目を向けていないのです。神様は多くの約束を与えてくださっていましたが、彼れらは、神様に、自分たちが、見捨てられ、忘れられたと感じていたのです。ここの「忘れられた」という言葉は、「忘れる、気に掛けることをやめる」という意味です。私たちは、時折、悲劇や苦しみが、自分たち、そして、愛する人たちに、降りかかるとき、同じように感じてしまわないのでしょうか？私たちは、神様はどこにいるのか？と疑問を感じ、さらに、主の愛や誠実さについても、疑い始めてしまいがちです。ダビデは、詩篇13篇で、同じように感じていたのです。「神は、私たちを見捨て、忘れ去られた」とご自身について、否定的に話すご自身の民に対して、神様はどのように応答されたのでしょうか？怒りをもって、でしょうか？まったくもって違います。神様の返答は、聖書の中で、もっとも慰めとなる箇所の一つだと、私は思います。

¹⁵ 「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとい、女たちが忘れても、このわたしはあなたを忘れない。¹⁶ 見よ。わたしは手のひらにあなたを刻んだ。あなたの城壁は、いつもわたしの前にある。」

B. 私たちは、見捨てられず、忘れられない

これらの、素晴らしい言葉について、深く話す前に、聖書を読むときには、背景や前後関係が重要

であることについて、簡単にお話しさせていただきたいと思います。

私たちが、聖書にある、約束を見つけるとき、その背景や前後関係が重要であることを覚えておくべきです。聖書の中にあるすべての約束が、今を生きるすべてのクリスチャンのためではないからです。これが16節の約束で、具体的に語られていることで、つまり、エルサレムの街についてです。イザヤ書の素晴らしい約束の背景を考えると、約束は「シオン」に特別に与えられたものであることが分かります。イザヤの時代、シオンは、神殿が建てられている丘だけではなく、城壁に囲まれたエルサレムの街をも示したのです。これが16節の約束で、具体的に語られていることで、つまり、エルサレムの街についてです。しかし、時折、聖書は、シオンという名で、神に選ばれた民であるユダヤ人をしめすこともあります。このこともまた、神様が意図されたことであるように思えます。こういうのも、13節で読んだように、神様がご自身の民を慰め、憐れまれとイザヤが語った言葉に対して、「シオン」が返事をする場面があるからです。だから、これらの約束は、ユダヤの民に対しての特別な約束ではありますが、神様のご性質を考えるなら、ほとんどの聖書学者は、信仰によって神の民となるすべての人にも、この約束は当てはめてもよいと信じています。イザヤの時代、また私たちの時代に生きるユダヤ人にも、異邦人にもです。ですので、これから私は、そのように当てはめていこうと思います。背景や前後関係は、私たちが、神様のことば解釈し、適応する際に、非常に重要であることを覚えておいてください。神様が自分たちを見捨てて忘れてしまったと思っている、人々に対して、神様は、どの人でもわかる例えを使って、このように、答え始められました。

「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。」

もちろん、これは、反語的な質問で、この答えは、明らかに、「もちろん、そうではない。」です。母の、自分が産んだ子に対する愛情は、本当に、特別で、深いものです。これは、母である人たちが、「本当にそうだ」と言うことができるように、神様が、全ての母の心に語り語りかけられていることです。ただ、悲しくも、自分の子を見捨て、愛さない母もいるのです。しかし、これは、神様にはあてはまりません。神様は、力強く、こう宣言されます。

「たとい、女たちが忘れても、このわたしはあなたを忘れない。」

神様は、どれほど、見捨てられた、忘れ去られた、一人ぼっちだと、私たちが感じようとも、それは、事実ではないことを知っていて欲しいと願われています。これと似た、約束をヘブル書13章5節で、見ることができます。このように、神様は言われます。

「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

C. 私たちは神様の手のひらに刻まれた

神様はそれから、16節を加えて、どれほどに、ご自身の民が神様にとって、特別で、尊いものな

のかを、強調されています。

「見よ。わたしは手のひらにあなたを刻んだ。」

1. “Behold” 「見よ」

神様は、「見よ」という言葉で始められています。それは、神様が、私たちの注意を向けてほしいとおもわれている言葉です。

神様は、自分たちを、主は見放され、忘れ去られたと感じている人たちに対して、「これを見よ」と言っておられるのです。

見よ。わたしは手のひらにあなたを刻んだ。

神様は、私たちの前に手を広げておられるイメージを与えてくださり、神様が御手に私たちのことを刻んだことが分かるようにしてくださっています。

2. すぐに消えてしまうインクではなく、手のひらに刻まれた

刻まれたと訳されている言葉は、「刻んだ」、「彫る」、「刻みつけた」という意味合いです。何か大切なことを後に覚えておくために、手に書いたことがあるという方は多くおられると思います。私も昔は、本当に、よく手に書いてました。しかし、今は、忘れっぽくなってしまい、あまりにも書き留めなくてはならないことが多くて、自分の手の平の大きさでは間に合いません。しかし、このように手に書いておくと、問題は、書いた文字が、消えてしまうことです。一体、自分が何を書いたのかを思い出すために、この文字は何かを理解しようとして、長い時間、手のひらを見つめなければならないことが、多々ありました。ここで、神様が言われたことのニュアンスとは、ご自身の手のひらに、私たちのことを刻む、あるいは彫られるので、私たちは永遠に、神様の手にひらに存在し続けるということです。クリスチャンの中には、良いクリスチャン生活を十分に送ることが出来ないならば、もし神様を長い間、疑い続けているならば、神様は自分を見捨ててしまうだろうと恐れている方もいると思います。しかし、そのようなことはありません。私たちを主は、決して、忘れることも、離れることも、見捨てられることもありません。

パウロは、イザヤ49章16節の約束にある神様の恵みを、第2テモテ2章13節で繰り返して語っています。

私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。

3. 私たちは、神様にとっていかに大切な存在かを示される

神様は、私たちの「名前」を手のひらに刻んだとは言われていないことに注目してください。神様

は、わたしは手のひらにあなたを刻んだ。と言われているのです。古代、ユダヤ人たちには、エルサレムと神殿の外観を、自分たちの手のひらに書く習慣がありました。エルサレムと、神殿に自分をささげ、そして、常に思い返せるように、彼らは、手のひらに描いたのです。そして、全知全能の造り主は、恵み深く、ご自身の子どもたちに、愛と誠実を尽くすことの証として、このユダヤ人たちの習慣を用いてくださったのです。神様は、どれほど、私たちが、神様にとって大切な存在であるかを知ってほしいと願われています。罪を犯し、疑い、恐れ、神様が、私たちに忘れ去られたと感じてしまうとき、神様は、私たちをご自身の手のひらに刻んだと、言ってくださいます。

結論

聖書には、神様の素晴らしい御手について述べている箇所が多くあります。

神様の御手は、創造的な手であります。

その手は、私たちをお造りになり、そして、日々、造り変え、主が、罪によって、私たちが傷つく前の理想とされた姿へと近づけようとされる、陶器師の手です。

私たちの陶器師の手は、また、自分の罪を認めて、赦しをもとめて、遑て御前に来る人に対して、大きく手を広げ、受け入れてくださる手でもあります。

神様の御手は、また強い手です

私たちが弱い時、強めてくださる手であり、

私たちが助けを必要としている時、助けて下さる手であり

そして、これ以上無理だと感じる時、支えてくださる手でもあるのです。

この御手に、主は、私たちの姿を刻み込まれたのです。それゆえ、私たちは、常に、神様に気にかけてられているのです。

.....

では、祈ります。

愛する天のお父様

困難な時に直面する際、あなたの愛と誠実さを疑う私たちをお赦しください。

あなたがいつも、近くにおられ、難しい時を通過しているとき、私たちを強め、助け、支えてくださることを覚え、信じる事が出来るように助けてください。

あなたが、私たちを赦し、決して、見捨てないお方であることを、覚え、信じる事が出来るように助けてください。

そのことを示すために、私たちの姿を、あなたの手のひらに刻んでくださいました。

なんと、素晴らしい真理なのでしょうか。本当に、感謝します。

どうか、今、痛みを感じながら、難しい時を通過している方々を強め、助け、支えてください。

どうか、私たちの主イエス・キリストと、私たちの父なる神ご自身が、あなたがたの心を慰め、強めてくださいますように。